



NPO 高知 県
日中友好新聞

2018年8月 1日

NO52号

NPO 法人高知県日中友好協会
発行責任者 浜田嘉彦

TEL: 088-825-0011

FAX: 088-825-0513

[Email:nichu-Kochi@movie.ocn.ne.jp](mailto:nichu-Kochi@movie.ocn.ne.jp)

第16回日中友好交流会議

参加者募集中

第16回目を迎えます、日中友好交流会議は今年岡山市で開催されます。
県日中として、5~6名の参加を考えています。
会期の日程等は下記のとおりです。

☆テーマ

日中民間交流の新しい時代を切り開こう

☆日時

2018年11月18日(日)~19日(月)

☆場所

岡山県岡山市

ANAクラウンプラザホテル岡山 等

☆参加費

お一人様 25,000円

(会費、歓迎会(1日目夕)、2日目昼食を含む)

※宿泊費用は別途必要となります。

■参加希望者は事務所へ連絡してください。(088-825-0011)

締切・・・9月21日(金)

【日程】

○11月18日(日)

受付 14時~18時 ANAクラウンプラザホテル岡山 1Fロビー
歓迎会 18時30分~20時30分

○11月19日(月)

全体会議(9:00~11:00) ANAクラウンプラザホテル岡山 曲水
分散会(13:00~16:00) 岡山コンベンションセンター 405・406・407号室
閉会式(16:15~16:45) ANAクラウンプラザホテル岡山 曲水

大連紀行

～全国より 350 名、四国より 38 名が参加～

会員・・・山田健一

2018年5月25日金曜日、午前4時20分市内より、植野克彦副会長、田村信雄事務局次長、石川孝彦さん、池上幸助さん、計5名にて出発、安岡土佐夫さんが、怪我の為行け無く成ったのが残念でした。早い回復を祈るばかりです。

この日は、田村さんの新車の使い始めが、我々の乗車で関空行きとなりました。田村さんに感謝の一言です。

スムーズに関空に着き、四国より出発する方々38名全員が揃い、日本時間午後三時二十分空の人になりました。何かの間違いだらう、私一人だけが、ファーストクラス（VIP）席になっていた。乗務員がなにやかやと世話をしてくれるが、緊張して寝るだけにしました・・・。笑話が後先になりますが、我々大人数を最初から最後まで世話して戴きました、四国華僑華人連合会の「毛勇」（モウユウ）先生と、「姜光健」（キョウコウケン）さんに心より感謝申し上げます。



中国渡行は、今回で六度目ですが、歓迎観劇会で初めて見た京劇で、歴史を感じました。特に変面というか、目にも止まらぬ速さには感動・・・。飲物（酒）類は、慣れている日本の物が恋しくなりました。

5月26日土曜日。この日は明治時代に日露が覇権を争い戦争をした旅順の観光である、

二〇三高地にも行ったが、当時の生々しい戦跡は無く、心がホッとした思いだ。古代トルファンとハミの服飾展を見学した時、日本の袴の原型は中国だと思った。中国の人々は、日本人が来ても友好的であり日露の戦争で、中国人の犠牲者も多く大変であったらうに思う時、大きな心の国だと感動した。

都市中心部もそうだが、周辺部でも三十階を越えるビルが群立しているのには驚いた。

5月27日日曜日、待望のアカシア（槐花）ウォーキングフォーラムだ。中山ホテルを、中国時間午前8時頃出発。VIP扱いで、約



1時間半位行った村で、「于建軍」大連市中日友好協会会長の宣言で始まった。高知県の旗を受け取りに壇上に行った時は何とも言えない感動であった。これが日本で開催されたら、これ位の大会が出来るだろうと思った。

「于」会長をはじめ大連の関係者の皆さんに感謝である。約8300万人の中国共産党員の方が、政治・行政・国防・公安等を行い、国民に自由に中国国家の為に競争し、富を作ってゆく、今の中国に世界に類を見ない新しい共産国家を見る思いがした。

国民の自由を痛感したのは、瀋陽に行く新幹線のとある停車駅で、若いカップルが抱擁し、誰はばかることなくキスをして、列車に乗るために別れを惜しんでいるのを目にして中国国民は自由に生きている、日本より自由ではとも思った。

来年も、アカシアウォーキングフォーラムには、必ず行きます。帰国の飛行機ではファーストクラスで無くホッとしました。

NPO高知県日中友好協会に感謝申し上げます。とともに安岡さんの早い全快をご祈念いたします。

初めての中国

一般参加・・・石川孝彦

高知市消防局時代の先輩安岡土佐夫さんから電話がかかってきて、中国の大連へ一緒に旅行しないかと誘われました。私の頭の中は、中国旅行「新しい発見、お酒、料理、美人」と「怖い、危険」というイメージが交差しました。安岡さんから、日中交流の一環でアカシア巡りウォーキング大会をメインに企画されたもので、来年も参加したくなる楽しい旅行と勧められました。(アクシデント 安岡さん旅行の一か月ぐらい前に怪我をして旅行参加せず。)

5月25日午前4時ごろ、2日前に納車になった田村信雄さんのトヨタヴェルファイアに植野克彦さん、山田健一さん、池上幸助さんと私が同乗させてもらい高知を出発、関西国際空港に向かいました。関空で昼食、四国の参加メンバーと合流、搭乗手続き等して午後3時過ぎ私たちの乗った中国国際航空の飛行機は中国大連に向けて飛び立ちました。飛行機の中で機内食をとって、ビールも飲んだのでうとうとしていると大連に到着しました。迎いのバスに乗り宿泊先の大連中山ホテルに空港から30分ほどで到着、ホテルでチェックインし少しくつろいだ後、大連市中日友好協会主催のアカシアウォーキング大会歓迎会の参加のため、元日本の東本願寺だったという宏済大舞台へ移動しました。大舞台劇場で歌、演奏、ダンスを觀賞しながら中国料理に舌鼓を打ちながら宴を楽しみました。

次の日は、日露戦争の戦場後の旅順の203高地、大連現代博物館や神谷漢方医院を見学しました。夜は四国華僑華人連合会の「姜光健」さんの案内で中国の居酒屋で海鮮料理を肴に飲み、その後ホテル近くの屋台街を散策しました。

3日目がウォーキング大会で、ホテルから会場である金州石河子満州郷へバスで移動しました。満州郷は、赤い提灯を吊り下げた楼門のある塀に囲われた家々のある農村でした。大会会場では、地元の人たちによる、めでたい芸能が披露され、主催者等の挨拶の後、アカシアの花が咲く川沿いのコースを爽快な風を感じながらウォーキングしました。ウォーキングの後、参加者全員で記念撮影をし、昼食後明清時代の建物連海書院を見学しホテルへ帰りました。ホテルでは、大連市中日友好協会主催歓送会が催され、料理とお酒に囲まれてまた楽しい時間を過ごしました。



4日目、5日目が中国旅行のオプションで大連から中国の新幹線で瀋陽に行き、自由市場

の五愛市場、清王朝の陵墓である北陵公園、清王朝の初代及び二代皇帝が住まいしたという瀋陽故宮を見学しました。瀋陽は大連と比べるとまだ古い町並みが残っていて、大連であまり見かけなかった自転車やバイクも走っていました。また新幹線で大連に戻り、次の日、大連空港から中国国際航空の飛行機で日本に帰ってきました。

中国は、私のイメージと違ってものすごく発展していました。高層建築物が建ちならび、走っている車はみな結構いい車です。軽自動車は1台も見かけませんでした。人と街に活気があり、楽しそうに感じました。

今回の旅行では多くの人に大変お世話になりました。皆様ありがとうございました。

「西日本地区日中友好協会訪中団」に参加して

会員・・・宮本博行



この度、中国駐大阪総領事館主催の「西日本地区日中友好協会訪中団」に参加する機会を頂き、7月2日～8日までの日程で、高知からは私1名が参加させていただきました。

自宅の四万十市からは交通の便が悪く、汽車と夜行バスを利用することにした。先ず、須崎まで汽車で行き、須崎発の夜行バスに乗ることにしたが、今回の豪雨の始まりで須崎までの列車のダイヤが乱れていて、須崎9時20分発のバスにやっと間に合った。

7月2日午前7時30分に関空の中国東方航空カウンターに集合。団長は和歌山の中拓哉さん、事務局長は大阪の藤井秀幸さんで、参加者は大阪・京都を中心に総勢27名の訪中団だ。早速荷物を預けて、8時から大阪総領事館の壮行会が行われ、一路上海浦東空港に向けて出発した。

浦東空港で入国手続きを済ませ浦東空港から昆明空港へ。予定どおりに昆明空港に着いたのだが、私も含め2名の荷物が届かない。係りに問い合わせると、どうやらスマホの充電器が問題ありということだった。昆明空港では北京から李さん、現地ガイドの馬さんが迎えてくれた。

3日は三つの公式行事が予定されていた。一つ目が「藤沢友誼会館」見学。昆明出身の作詞家と藤沢市の友好が両市の友好に発展したのだそう。二つ目が昆明市対外友好協会との交流だ。昆明市は人口45万人。石林、西山竜門、滇池などの景勝地が有名だ。三つめは雲南省対外友好協会との交流だ。雲南省は人口750万人。昆明市以外の有名な所は麗江、大理、シャングリラ、梅里雪山、元陽棚田、シーサンパンナなどが有名だ。今、雲南省は習近平主席の「一带一路」政策の西南地区の拠点として、東南



アジアの中心地としての位置づけをしている。ちなみに私の荷物は夜間に昆明まで届いた。しかし、もう一人の荷物は帰国まで届かなかった。

4日からは観光中心の行動になる。7月に開通したばかりの新幹線で大理まで行く。ガイドの馬さん曰く、おそらく日本人で最初に乗った？のではとのこと。大理は元（げん）がこの地方を征服するまで大理国の首都だった。元は風水的に素晴らしい大理に首都を置かず、現在の昆明に政治の中心を移し現在に至っているそうだ。大理では大理古城、洋人街、崇ケイ寺3塔を見学。



5日は洱海（じかい）（といっても湖）観光。4階建ての船で約2時間の航海を楽しむ。午後は胡蝶泉を見学。ここは冷たい水の小さな泉があり、ここに有る大きなねむの木に何万羽の蝶々が集まるそうだ。

6日には新幹線で昆明へもどる。雲南省には25の少数民族が住んでいる。それを昆明で一堂にみられる民俗村に行く。ナシ族、イ族、ワ族、ハニ族、チベット族の村に行く。それぞれに特徴があり興味がわいた。

7日は石林へ行く予定だったが、西山にある竜門へ単独で行かせてもらった。案内は「日本雲南聯宜協会雲南事務所」の李さんをお願いした。この協会は雲南省の少数民族を支援する団体で、既に小学校を25校以上建てている。また、女子高生に対し奨学金の支援もしている団体だ。竜門はロープウェイ、バス、徒歩で行かなければならず、階段も1000段以上あるそうだ。大汗をかいたが、その分昆明の街を一望出来てすばらしい所だった。

今回の中国旅行で食事とお酒は私にとってもう一つの楽しみだったが、大いに食べて大いに飲んで他府県の会員との交流も進んだのは大変有意義だったと思う。

8日は帰国だ。朝4時起きでホテルを出て、一路上海浦東經由関空へ。西日本の豪雨は向こうでも話題になっていたが、これ程とは思っていなかった。関空へ着きスマホの電源を入れると、さっそくバス会社から中村までのバスが止まっているとのこと。とりあえず高松までバスで行き泊まる。次の日に高速バス（川之江 - 大豊間はう回）で高知まで。夕方やっとJRが動いて夜中村まで帰った。旅行全体でトラブルの連続だったが、有意義な体験をしたと思っている。この体験をさせていただいた多くの皆さんに感謝し、報告とします。

